

2018年10月1日

報道関係者各位

ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会

国内の 22 事業者・団体が集結し  
地域に眠る名品、それを支えるストーリーを今年も発掘します！  
**「2018 年度 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」**

-10月1日よりエントリー受付開始-

<https://furusatomeihin.jp/>

「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会(実行委員長:古田秘馬、以下「実行委員会」)では、地域の素晴らしさを域外の消費者に直接伝えようとする新たなチャレンジを、より多くの人に知ってもらうことを目的に、表彰制度「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー2018」を実施いたします。

「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」は、地域に眠る名品とそれを支えるストーリーや取組を発掘し、「ヒト・モノ・コト」それぞれの表彰を通じて、地域のチャレンジをより多くの人に知ってもらい、地域の将来を支える名品とその国内・海外の市場開拓および“地域のファン化”を支援する表彰制度で、2015年に始まり、今年度で4年目の実施となります。

ものづくり等のイノベーションを促進して地場産業を盛り上げるとともに、それを支えるストーリーや人材をエンカレッジするとの意思を同じくする民間企業 22 社および組織(幹事社 6 社、会員企業・団体 12 社および組織、参加企業・団体 4 社および組織)が、知恵と力を合わせて様々な角度から発掘すると同時に、表彰制度を通じてより広く、効果的に発信、周知することを目指しています。

昨年度までは、ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会に参画する企業が、「部門賞」という形で、エントリーをそれぞれ受け付けておりましたが、今年度からは、ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会に直接応募いただく形となります。10月1日よりエントリー受付が始まりましたので、公式 WEB サイト(<https://furusatomeihin.jp/>)よりご応募ください。

また、地域の価値を新たな形で高めて販売して行く、各地での地域商社事業の推進を目的とした第 10 回の地域商社協議会を、11月26日(月)に、開催いたします。

実行委員会は、地域の将来を支える名品の発掘、市場開拓、及びそれらを実現する人材や取組を支援することを目的に、本日発表した表彰制度、地域商社協議会のほか、参加する民間企業間で様々な連携をしながら、地方創生のサポートを展開していきます。



## <「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会>

実行委員長： 古田 秘馬

幹事社(6社)： 株式会社ジューピターテレコム(J:COM)、株式会社JTB、株式会社テレビ東京コミュニケーションズ、株式会社ドゥ・ハウス、株式会社ホンモノ・ジャパン、ヤフー株式会社

会員企業・団体(12社・団体)：

一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツエリア)、株式会社CAMPFIRE、キリン株式会社、KDDI株式会社、株式会社さとふる、大日本印刷株式会社、株式会社津々浦々、株式会社ビズリーチ、株式会社扶桑社、一般社団法人モテパLAB、株式会社LIFULL、株式会社リクルートジョブズ

参加企業・団体(4社・団体)：

自然電力株式会社、ひめ座協同組合、株式会社綿谷製作所、山田水産株式会社

後援(申請中)： 内閣府、経済産業省

## <ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2018 募集要項>

募集期間： 2018年10月1日(月)～2019年1月11日(金)

応募方法： 公式WEBサイト(<https://furusatomeihin.jp/>)より、ご応募ください

お問い合わせ先： furusatomeihin@jtb.com

### 【ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2018 地方創生大賞、地方創生賞】

それぞれの名品や、名品をめぐる人材・取組が、どれだけ地方の変革に向けた機運を醸成し、その実現に成功したかという観点から選考・表彰する賞。「ヒト」「モノ」「コト」の3つのカテゴリごとに地方創生賞を3つずつ用意し、それぞれのカテゴリの最高位を地方創生大賞とする。

応募条件： 本年12月頃までに、地域の特徴を生かした最近3年を目安に新たに販売・発表された名品を対象とします。ただし、販売・発表から数年経てもまだまだ認知のないコト・モノであれば受賞可能と判断する予定です。

選考フロー： 一次審査・二次審査・最終審査の三段階の審査を行います。

授賞内容： 「ヒト」「モノ」「コト」の3つのカテゴリごとに地方創生大賞3点と地方創生賞6点が授賞

### 【ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2018 政策奨励賞】

ヒト・モノ・コト、それぞれの見地からの審査では見落とされがちな、政策的見地から意義があると思われる候補を選出。その中から、地方創生を政策的に推進する上で、特に表彰に値すると考えられるものを政策奨励賞とし、その中でも最高位を政策奨励大賞とする。

### 【受賞者の権利】

- ① 受賞名品は、販促機会に「受賞ロゴ」を使用できます。
- ② 各事業者の特徴を生かした販促機会が(ECサイト無料掲載など)提供されます。(予定)

## <2018年度の「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会の取り組み>

- ① 表彰制度  
「地方創生大賞」「地方創生賞」「政策奨励大賞」「政策奨励賞」を設け、各事業者・自治体の商品や取り組みを支援してまいります。
- ② サポートプログラム  
各地域に実行委員を派遣し地域の魅力や課題を再発見する「出張ビジネススクール」や、地域の個別の課題に即して通年でのプロデュースを行う「地域プロデュースサポート」を実施します。  
<https://furusatomeihin.jp/support/index.php>
- ③ 地域商社協議会  
内閣官房、農林水産省、経済産業省、ふるさと名品オブ・ザ・イヤーが共同で官民連携の定期セミナーを開催し、公式サポーターと自治体のマッチングの場として展開しています。次回は、11月26日（月）に経済産業省講堂で開催です。  
<https://furusatomeihin.jp/kyogikai.php>

## <2017年度「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」受賞品>

### 【地方創生大賞・ヒト部門】

「シティマネージャー齊藤啓輔を中心とした衝撃に備えつつ未来に向かう地域創生」(北海道天塩町)  
<地方創生プロデューサー部門・ビズリーチ>より選出



### 【地方創生大賞・モノ部門】

高田耕造商店 紀州産 からだ用棕櫚たわし 檜柄  
(和歌山県)

<自治体が勧めるまちの逸品部門・トライステージ/産経新聞社>より選出



**【地方創生大賞・コト部門】**

NextCommonsLab 遠野 BrewingTono チーム  
(岩手県遠野市)

〈つなげよう 国産ホップの輪部門・キリン〉より選出



**【政策奨励大賞】**

SILMORE(シルモア) / 愛媛シルクプロジェクト(愛媛県西予市、大洲市)

〈チャンピオン・ジャパン・地域おこし部門・ホンモノ・ジャパン〉より選出



〈報道関係の方のお問い合わせ先〉  
ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会事務局  
大谷：070-1054-7835  
佐竹：080-3706-8691  
EMAIL: furusatomeihin@jtb.com  
時間：月～金9:30-17:30（土日祝 休業）